



小・中学生平和作文コンクール

市では平和事業の一環として、子どもたちの平和に対する思いや考えを発表する「小・中学生平和作文コンクール」を毎年実施しています。今年度は、小・中学校から41作品の応募があり、審査の結果、最優秀賞に小学生の部では古川第一小学校5年 武田愛実さんの「戦争のない世界へ」が、中学生の部では古川北中学校2年 千葉香苗さんの「平和な世界にするために」が選ばれました。

今回は、最優秀賞に輝いた2作品を紹介します。

問 政策課 ☎ 23-2129

★小学生の部 優秀賞

古川第四小学校5年	佐々木 文香さん	もし平和な時代に生まれなかったら
岩出山小学校6年	山崎 道隆さん	悲しい戦争と永遠の目標・平和
西古川小学校6年	木村 友仁さん	63回目の終戦記念日を迎えて
田尻小学校6年	岩井 美咲さん	戦争について考えたこと

★中学生の部 優秀賞

岩出山中学校3年	佐藤 果奈さん	私が考える平和
----------	---------	---------



11月19日に平和作文コンクールの入賞者を表彰しました

小学生の部 最優秀賞 戦争のない世界へ



古川第一小学校5年
武田 愛実さん

「平和」とはどんなことなのでしょう。

私は戦争を知りません。そのため、本当の「平和」も知りません。私が思っていた「平和」とは、今の状態、つまり日本が戦争もなく無事な状態のことでした。でも、次のような本を読んで、少し考えが変わってきました。

一冊目は、戦争中のゾウの話です。上野動物園には、戦争中、三頭のゾウがいました。しかし、ゾウは食べ物をたくさん食べるので、まずしい日本はとても困り、ゾウを殺してしまおうということになりました。飼育係の人達はゾウにごはんをあたるのをやめました。でも、ゾウは最後まで、係の人が通ると必死に芸

をしてみせました。小さい時、芸をして食べ物をもらったことを覚えていたからです。

二冊目は、「アンネ・フランク」についての本です。アンネはともて作文が上手で、明るい女の子でした。でも、当時は「ユダヤ人狩り」というものがあり、何も悪いことをしていないのにユダヤ人はつかまえられる、ガス室で殺されました。アンネもユダヤ人だったため、つかまえられ、家族とはなればなれになり、たった一人で死んでいきました。

私は、この二つの話を読んで、「平和」とは自分達が無事なことだけではないと分かりました。きっと、「平和」とは、すべての国が戦争をやめた時だと思っています。今もどこかで、戦争によって亡くなっている人がいます。悲しんでいる人がいます。「平和」について考えていかなければならないのは、すべての人達だと思います。日本国憲法にも「日本は戦争を放棄します」と書いてありました。

でも、そのきまりを取り消そうとしている人達もいるということが分かりました。そのきまりはなくてはならないもので、戦争を知りません。しかし、戦争のことを伝えることはできます。戦争を体験した方々から話を聞いたこと、資料などで調べて戦争のことを知るといのが大切だと思っています。私たちは戦争のことを知った上で戦争のない平和な世界にしていかなければいけません。世界が平和になり、世界の人々が協力すれば必ず幸せな世界が作れると思います。そんな世界を作るのは私たちです。では、どうすれば平和な世界が作れるのでしょうか。

今、核ミサイルや核爆弾という言葉をよく耳にします。私はそのたびに怖くなり、それが飛んで来たらと思うと背筋がゾッとします。また、最近のニュースや新聞などでは、「北朝鮮、核計画申告。アメリカ、テロ支援国家から解除へ」というような見出しもありました。どこに核兵器などの武器を隠しているのか分からない状況なのです。そして、中東では長い間戦争が続いています。

のです。私は、すべての国にこのような決まりが必要だと思っています。本当の「平和」は、すべての国のすべての人が協力しなければ成り立たないと思うのです。

今、戦争が起こったら、きっと長崎や広島に落とされたような原子爆弾が使われるでしょう。今、私は安心してくらししていますが、どこかでまた戦争が起こった時のために爆弾を研究している人達がいるというのです。私はぞつとしました。でも、一番こわいことは、そのようなおそろしいことを知らないことだと母に聞きました。「平和」について考えようとしないうちは、本当の「平和」を分けることができないからだと思います。

「平和」は、とても大切なものだと思います。「平和」の祭典であるオリンピックの間もロシアの方では戦争がありました。上野動物園のゾウや、アンネ・フランクのような悲しい話が増え、ほしくはありません。これからたくさん本を読んだり、話を聞いたりしながら、「平和」について深く考えられるようになりたいと、私は強く思います。



古川北中学校2年
千葉 香苗さん

中学生の部 最優秀賞 平和な世界にするために

五月十五日、この日は沖縄の本土復帰記念日です。ニュースなどでは取り上げられていますがあまり知られてはいません。沖縄は、第二次世界大戦の際に日本で唯一戦地になった場所です。そのため、現在でも米軍基地が建っています。

私は、六年生の時に「さとうきび畑の唄」というドラマを見ました。それは、平和だった沖縄で平凡な生活を送っていた家族が戦争によって引き裂かれてしまうという内容のものでした。沖縄で起きた戦争という悲劇を残酷に描き出したドラマでした。私は、このドラマを見るまでは沖縄というと、きれいな海と独特の

文化というようなことしかありませんでした。しかし、ドラマを見てからはこのきれいな土地でたくさんの人々が犠牲になり、亡くなったのだというイメージも持つようになりました。そして、以前よりもっと沖縄へ行ってみたくて、この気持ちが強まりました。また、沖縄の歴史にも興味を持つようになり、インターネットなどで色々なことを調べました。すると、心が痛むようなことがたくさん分かりました。その時に沖縄の本土復帰記念日のことも知りました。

昭和十九年十月十日以降の米軍の空襲と、昭和二十年四月一日から六月二十三日まで続いた米軍沖縄上陸作戦では、軍人・民間人合わせて二十万人もの犠牲が生まれました。そして、沖縄はアメリカに占領されました。また、戦争終結後もアメリカは沖縄の他に奄美・小笠原を日本から切り離して管理し、すぐに戦争の始まった朝鮮、引き続いてベトナム他、インドシナ、そして果てしない戦いの続く中東へと軍隊を派遣するため前線基地・中継基地として

沖縄は使用されてきました。その間、アメリカ軍は沖縄の人々を従属国の人間として見下した扱いをし、その風潮は復帰後長い年月のたつた今も大きくは変わっていないようです。このように、アメリカに占領されていた沖縄が日本に復帰したのが昭和四十七年の五月十五日でした。沖縄が米軍の手に落ちて以来、二十七年ぶりの復帰でした。

当時、本土復帰後もアメリカが沖縄に基地を維持することを認める口約束の上で初めて復帰交渉が成功したということが長い年月が経って明らかになりました。私は、この事実を知ってから、沖縄にこんな歴史があったのかという驚きと悲しみがこみ上げてきました。沖縄は日本の歴史の中で琉球王国として貿易などの面でとても重要な役割を担っていますが、沖縄となつてからは世界の戦争を語る上で欠かせない存在になりました。

現在、日本はとても平和な国です。世界の国々も日本を平和国家として認めています。世界的に戦争が無くならない今、日本は戦争経験のあ

今のこの世の中は、平和な国ではのんびりとした毎日を過ごしている一方で、戦争が続いている国ではいつ死んでしまうか分からないという中生活しているのです。この地球という一つの星の中でまったく正反対の生活をしている人々がいるのです。

私はそんなことは間違っていると私は思います。そんなことはあつてはならないと思います。世界中の人々が平和に幸せに暮らせるようにするには、武器も凶器も争いも無くしていかなければいけません。

争いを無くす、それが平和な世界を作るための第一歩だと私は思います。その理由は、今の争いはすぐさまいなくなるとから始まっているからです。ささいなことでもとても大きな争いを引き起こしてしまふということ。現在でも本当に小さい口喧嘩から相手を殺してしまうということが起きています。だから、私たちも身近な争いを無くすことを心がけていかなければいけません。争いが無い平和な世界、そんな世界に私はしていきたいです。